

ほっトリハ

第 7 号

H26 年度夏



(発行) 東京都リハビリテーション病院
医療福祉連携室
〒131-0034 東京都墨田区堤通 2-14-1
TEL: 03-3616-8600
FAX: 03-3616-8699
<http://www.tokyo-reha.jp>

【Photo by Kurosawa】

平成 26 年度新任のご挨拶

院長 新井康久

平成 26 年 4 月 1 日付けで林 泰史先生の後任として東京都リハビリテーション病院長を拝命いたしました新井康久と申します。このたび新任挨拶の執筆依頼を受けましたが、まだ就任後 1 ヶ月で病院内をすべて把握しておりませんので自己紹介を兼ねてひとこと申し述べさせていただきます。

私は昭和 30 年に東京の北区で生まれ、その後ずっと東京で育ちました。いわゆる江戸っ子ではありませんが、江戸っ子気質は持っているものと自負しています。私が小学校 3 年時の昭和 39 年 10 月 10 日に東京オリンピックが開催されました。当時、家には白黒テレビがあり、みんなで開会式の選手入場行進を見たことを鮮明に覚えております。数年前に映画で話題になりました「ALWAYS 三丁目の夕日」の映像シーンを想像していただければイメージが湧くかと思いますが、あのころの東京は高速道路やビルの建設ラッシュであり、所得倍増計画のもと社会全体が成長期であり、景気が良くて非常に活気に満ち溢れていたように感じます。その東京で 2020 年に再度東京オリンピックが開催されることが決定し、準備が進められているようですが、環境に配慮したエコノミックで治安の良い大会が開催されるよう願っております。

さて東京都福祉保健局の統計では東京の総人口は 2015 年以降減少に転じることが見込まれており、2040 年にかけて 65 歳以上

人口が 268 万から 412 万と 1.5 倍に、また 75 歳以上人口が 123 万から 214 万と 1.7 倍になる予想であります。また合計特殊出生率は全国で最も少なく平成 25 年には全国で唯一 2 人を割り込む 1.98 人であったことより東京は少子高齢化の自治体代表といえるでしょう。さらに世帯構成では 75 歳以上の単独世帯数と世帯主が 75 歳以上の夫婦のみの世帯数がそれぞれ 1.7 倍に増加することが見込まれており、今後の東京では独居高齢者や高齢者夫婦の割合が増えるのは確実であります。このような状況を考慮しますと国の方針である地域包括ケアシステムの構築が喫緊の課題といえるのではないのでしょうか。その構築に向けて在宅療養の中核的サービスである介護サービスと医療サービスの充実と連携とが必要になります。訪問リハビリテーションは地域に密着した関係が必須ですが、リハビリテーション専門職数が少なく質も担保されていないのが現状です。当院で行っている墨田区在宅リハ支援事業が今後うまく機能していくとともに、さらに墨田区以外の東京都全体にも在宅リハサポート医制度が拡大されることを願っています。

今後は病院長として当院の発展のために誠心誠意努力いたしますので皆様方のご支援を何卒、よろしくお願い申し上げます。

2014 年 4 月 吉日



東京都リハビリテーション病院
副院長 柳原 幸治

- ・東京大学リハビリテーション科非常勤講師
- ・日本リハビリテーション医学会、専門医、臨床医、指導医
- ・身体障害者福祉法 15 条指定医（音声、言語機能障害、咀嚼機能障害、肢体不自由）
- ・義肢装具適合判定医（研修終了）
- ・日本神経心理学会会員
- ・日本摂食・嚥下リハビリテーション学会会員

私の考え方

人前で言うと、“医者なのに何で”、といわれそうなことをいっぱい考えています。たとえば感染症。はしかや結核、インフルエンザにかかりそうな時や人を、予防接種その他で軽減しようという考え方。天然痘のように撲滅に成功したウイルスはありますが、どうなのかな〜と。そもそもウイルスは人類発生前から存在していた、生命体の一部（自己複製機構は持っていますが、細胞、細胞壁を持たないウイルスは、生物に数えられてない）です。生命体の一部という言い方は、生命の仲間という意味ではなく、私たちの遺伝子の 10%前後はウイルスの遺伝子でできていると言うことです（活動していないのかもしれませんが）。ウイルスは、細胞の中に入って、宿主の遺伝子に組み込まれて初めて、自分の複製ができるので、消えずに残っている遺伝子はたくさんあるはず。遺伝子だけではないのです。私たちの知っている、エネルギーを作り出すミトコンドリア。あれは別の種類の生命体が、体細胞の中に寄生（というより共生、初期の細胞は簡単に癒合したりしていました）した例です。独自の DNA を持ち、母親からしか遺伝しません（つまり私たちのもっているミトコンドリア DNA は卵細胞の中にあつた DNA のみで、精子からは DNA は伝達されません）。原始の生物のほとんどは、酸素を利用してエネルギーを生み出す仕組みを持たず、むしろ酸素は生命体によって有害だったのです。ミトコンドリアは酸素をエネルギー生産に利用していて、それを取り込むことで他の生命体は、酸素の多くなった地球で生き延びる

ことができました。また母親からしか遺伝しないミトコンドリアのおかげで、人類がアフリカの一人の女性から発生してきたことが分かったのです。自然界は、自分にとって都合が悪い物が出現したとき、その排除に失敗すると、それを撲滅するのではなく、それをうまく利用したりして共存する道を選んできました。細胞の中でもそうです。細菌やウイルスもそのようにして共存してきたと言えるのではないかと。今は人類に都合のいい方向に自然界を変えようとしています。たとえば集団免疫の低下した現代社会に、結核や麻疹がひとたび流行すれば、多くの犠牲者が出るのはわかりきっています。昔は、はしかはもらいに行ってもかかるべき流行病で、ひとたびかかると終生免疫を得ると考えていました。確かに終生免疫は怪しくなってきましたが、再感染でも軽症で済むことは事実で、初感染での致死率もある程度はやむを得ないと考えることができれば、予防接種ではなくかかっておいた方がよい病気かもしれません。個人のレベルでは、自分や自分の子供がかかって死んだらどうするんだって言われそうですが、排除することだけを考えると、将来の人類は遺伝子的にも過去の遺物になって、生物学的に新しい環境に適応できる能力を失ってしまう可能性すらあるのではないかと・・・この共生、共存という考え方、とっても重要で、医学・医療の考え方にもこれがもっと入るべきと考えているのですが、それはまたの機会にします。
2014.5.23



新任医師紹介【1 出身大学 2 指定医・認定医など 3プロフィール】

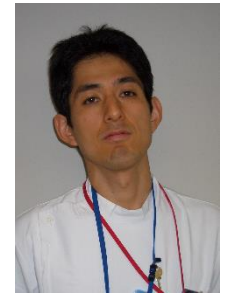
大江 康子 リハビリテーション科

1. 福島県立医科大学医学部卒
2. 医学博士，日本神経学会認定神経内科専門医，日本脳卒中学会認定専門医，総合内科専門医
3. これまでは、脳卒中中の急性期の病棟に携わっていました。これまでは、回復期リハビリテーション病院に転院していくところまでの現場でしたが、これからは、自宅退院への橋渡しを行う回復期リハビリテーションでの臨床を勉強していきたいと思っています。



杉 徳臣 リハビリテーション科

1. 九州大学卒
2. 義肢装具等適合判定医師講習会修了、回復期リハビリテーション病棟医師研修会修了
3. 初期研修終了後から回復期リハビリテーション病棟に携わり、3年の月日が経過しました。ただ漫然とリハビリを行えばよいというものではなく、御本人の現在の状況および社会的背景に合わせてゴール設定を行い、その目標に向かって各職種が連携して取り組んでいけるように配慮しております。御家族におきましても、何か疑問点やご希望がありましたら、いつでもお申し付け頂きますようよろしくお願い申し上げます。



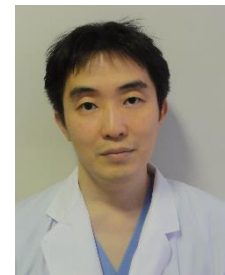
五十嵐 祐嗣 リハビリテーション科

1. 東邦大学医学部卒
2. 産業医
3. 社会人として約15年過ごし、一念発起して39歳で医学部に入りました。一般的なことなら一通りこなせる赤ひげ先生を目指しております。リハビリ医は医学的に広い知識を要求され、かつ、患者さまの背景を理解するために、社会制度などにも精通する必要があります。また、様々なスタッフと共にタッグを組んで臨みます。良い医療は良い連携から生まれると信じ、チームワークを大切にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



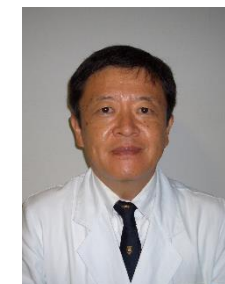
三並 正芳 リハビリテーション科

こんにちは、2014年4月1日より、東京都リハビリテーション病院の診療部医員として配属になりました、三並正芳と申します。これまでの1年間は急性期病院において、他科よりリハビリテーションのコンサルテーションに対応していました。現在、後期レジデント2年目となります。まったく初めての回復期病院に赴任し、数か月が経過いたしましたが、未だ戸惑うことしばしばです。何卒、今後ともご指導ご鞭撻下されば幸いです。



秋元 利之 リハビリテーション科

1. 順天堂大学医学部卒
2. 日本整形外科学会専門医、産業医
3. 整形外科医からリハビリテーション医に転進することになりました。脳・神経疾患に関しては、初心者です。しばらくは、お許しください。いつでも、のみやドリルは使えるよう心づもりはしています。よろしくお願い致します。



退職に当たってのご挨拶

林 泰史

平成26年3月31日に職を辞するまでの8年間、職員の皆様方、また地域の医療関係者の方々に仕事を支えていただきました前病院長の林 泰史です。平成2年4月の開設時からの副院長期間を合わせますと約13年間にわたり東京都リハビリテーション病院にお世話になりました。



病院開設時は総人口に占める高齢者人口が14%以下の高齢化社会、病院から南千住駅の間を高層建築物は皆無、広い運動公園にひばりが囀り、コウモリが乱舞する牧歌的な状況でした。しかし、病院長退職時には人口に占める高齢者人口が21%以上の超高齢社会となり、リハビリテーション医療が包括的な高齢者医療体制に組み込まれそうな、緊迫した状況になっています。

この大切な時期に院長職を離れて申し訳ない気持ちですが、幸いにも情熱溢れる新井新院長のもとに多くのリハビリテーション医が参集し、全職員が更なる高みへと歩み始めているのに接し、今後の病院に大きな夢を託してサンデー毎日の生活に入ることが出来ました。職員の皆様方、そして地域の皆様方には「今後とも東京都リハビリテーション病院の発展によろしく」と申し上げまして、退職に当たっての御挨拶とさせていただきます。

新任事務長ご挨拶

平成26年7月16日付で当院事務長に就任いたしました中山 政昭です。前職は都庁福祉保健局で、介護保険制度運営や特別養護老人ホームの整備など、東京都の高齢社会対策に関する施策の推進に携わっておりました。急激に高齢化が進む東京にあっては、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、医療や介護、生活支援サービス、住まいなどが切れ目なく適切に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が急務となっています。

こうした中、リハビリテーション専門病院としての当院の役割はますます高まるとともに、都民からの期待もまた大きいものがあると考えます。

当院の運営理念、及び基本方針に掲げた目標に向けて、関係部署・機関との円滑な連携を図り、事務室から院の運営を支えてまいります。

どうぞよろしく願いいたします。



研修会開催案内

区東部地域リハビリテーション支援センター事業主催

平成26年度リハビリ多職種連携研修会

認知症に対するリハビリテーションについての研修会を開催いたします。

日時:平成26年10月頃

平成26年度 摂食嚥下リハビリテーション研修会

「摂食嚥下リハビリテーション研修会」を開催いたします。各分野の専門家からの講義と実習を織り交ぜた無料の講習会ですので、皆様奮ってご参加下さい。

日時:平成27年2月頃

高次脳機能障害「専門的リハビリテーションの充実」事業主催

平成26年度 高次脳機能障害専門職種研修会

日時:平成26年度11月頃

本誌に関するお問い合わせやご意見は、下記アドレスまでお寄せ下さい。

renkei@tokyo-reha.jp

東京都リハビリテーション病院は東京都の指定管理者制度に基づき(公社)東京都医師会が運営する病院です。